

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	A-120	15-002 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Regular wine consumption in chronic heart failure: impact on outcomes, quality of life, and circulating biomarkers.</p> <p>心不全においてワインが予後、クオリティ・オブ・ライフおよびバイオマーカーにおよぼす影響</p>		
執筆者		
Cosmi F, Di Giulio P, Masson S, Finzi A, Marfisi RM, Cosmi D, Scarano M, Tognoni G, Maggioni AP, Porcu M, Boni S, Cutrupi G, Tavazzi L, Latini R; on behalf of the GISSI-HF Investigators.		
掲載誌		
Circ Heart Fail. 2015 May;8(3):428-37. doi: 10.1161/CIRCHEARTFAILURE.114.002091.		
キーワード		PMID
飲酒、心不全、健康状態、うつ状態、バイオマーカー、観察研究		25925415
要 旨		
<p>目的： イタリアにおける大規模臨床試験に参加した慢性心不全患者を対象として、ワインが健康状態、バイオマーカーおよび予後におよぼす影響を検討した。</p> <p>方法： GISSI-HF 試験に参加した 6,973 名の慢性心不全患者において、質問票を用いてワイン摂取量を調査した。評価項目には、臨床アウトカム、クオリティ・オブ・ライフ、うつ症状およびバイオマーカーを用いた。</p> <p>結果： 56%の対象者が週 1 回以上ワインを飲んでいて、他の危険因子を調整した多変量解析において、ワイン摂取量と死亡あるいは心不全による入院との間には明らかな関連を認めなかった。しかし、ワイン摂取量は、カンザス・シティ心筋症質問票スコアによる健康状態の改善、老年者うつスケールによるうつ状態の改善、炎症バイオマーカーの改善と関連していた。</p> <p>結論： 中等量のワイン摂取は、健康状態、うつ状態および炎症バイオマーカーの改善と関連していたが、臨床アウトカムは改善しなかった。</p>		